



富士保健所は汚染が
たかまる

……44年と45年比較では……

イオウ酸化物の今年1月から3月までの測定結果と、44年度と45年度の測定比較がこのほどまとめました。

昭和46年1月から3月までの3ヶ月間の測定結果は、鷹岡公民館を除く6測点で昨年より減少しています。鷹岡公民館についても0.002 P Pmアップにしたにすぎませんでした。

昭和44年度と45年度(45年3月から46年3月まで)の比較については、富士保

イオウ酸化物が各測点で減少

汚染は広がる傾向に

健所を除き各測点ともイオウ酸化物は減少しています。44年度と45年度の測定結果(平均値)は次のとおりです。

	44年	45年
・富士保健所	0.062	0.058
・第3中学校	0.050	0.066
・勤労青少年会館	0.049	0.049
・元吉原中学校	0.059	0.075
・富士中学校	0.049	0.050
・鷹岡公民館	0.051	0.053
・大淵中学校	0.027	0.028

*単位はP Pmです。

以上のことわからるように、元吉原中学校と富士保健所を除く、各測点年平均は環境基準(0.05 P Pm)をほぼ満しています。また、0.2 P Pm以上の高濃度の出現時間数は全測点で環境基準(年間測定時間の99%以下が0.2 P Pm)を満しています。しかし、0.05 P Pm以下の時間数が70%以上なければならないとい環境基準は大淵中学校を除く各測点でオーバーしています。

こうした結果から、気象による影響に左右されることはありますが、局地的な高濃度の出現は年ごとに減少しています

イオウ酸化物

排出量を減らす ことが急務

これは、昭和44年から煙突の正常化などの発生源に対する行政指導によるものと考えられます。反面、高煙突化などによつて汚染が市内全般に広がつている傾向がみられます。

したがつて、これからの大気汚染防止対策は、低イオウ重油の確保によるイオウ酸化物の排出量を減少することが必要です。このため4月に発足した公害対策審議会などによつて施策をたて、企業との協定を結び、積極的な対策をたてていきます。

測定場所	測定期間	測定日数	測定時間数	1時間値 期間平均 (P Pm)
富士保健所	45年 1~3	82	1788	0.069
	46年 1~3	88	1978	0.063
吉原第3中学校	45 1~3	86	1985	0.056
	46 1~3	88	2002	0.043
勤労青少年会館	45 1~3	88	2007	0.042
	46 1~3	88	2019	0.040
元吉原中学校	45 1~3	73	1739	0.071
	46 1~3	88	2022	0.061
富士中学校	45 1~3	88	2084	0.049
	46 1~3	88	2136	0.039
鷹岡公民館	45 1~3	82	1861	0.044
	46 1~3	88	2129	0.046
大淵中学校	45 1~3	16	368	0.026
	46 1~3	88	2118	0.024

月別一時間値平均対比

測定場所	1月	2月	3月
富士保健所	0.066	0.084	0.061
	0.060	0.067	0.064
吉原第3中学校	0.056	0.057	0.054
	0.045	0.043	0.044
勤労青少年会館	0.037	0.046	0.045
	0.040	0.040	0.039
元吉原中学校	0.080	0.073	0.054
	0.069	0.066	0.049
富士中学校	0.045	0.056	0.048
	0.033	0.043	0.042
鷹岡公民館	0.044	0.053	0.036
	0.039	0.048	0.051
大淵中学校	欠測	欠測	0.026
	0.022	0.024	0.025

(注) 単位はいづれもP Pm

45年の富士中学のデータは富士事務所 鷹岡公民館のデータは鷹岡事務所